

広報

環境カウンセラーちば

第26号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。

環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

平成17年度 県とNPOとの協働事業
「エコアクション21(EA21)普及セミナー」開催
県下4地域(松戸市・市川市・佐原市・君津市)

1. 県とNPOとの協働事業

千葉県には、県が抱えている課題(県民が考えている千葉県の課題と県行政が抱えている課題)の解決のために県行政とNPOが協働して取り組む「県とNPOとの協働事業提案制度」がある。平成17年度(今年度)は、4月に提案募集があり、17件の応募があった。NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会(以下、当協議会と略記)は、平成15年度に「地球温暖化防止活動推進員養成・ブラッシュアップ研修会の開催」をテーマとする事業を受託した経験を踏まえ、「エコアクション21(EA21)普及セミナーの開催」というテーマで、今年度実施分の案件として応募した。

エコアクション21は、略してEA21は環境省が昨年策定した環境経営システムであり、今回の提案はこれを広く県内に広めようという内容である。

第一次審査を通った17件について8月3日に公開プレゼンテーションが行われ、國廣が提案事業の内容を説明し、8月9日に第二次審査が実施された。その結果、今年度の実施案件として5件、来年度分6件が採択され、当協議会の提案事業も幸にも採択された。当協議会の提案事業が採択されたのは、EA21の普及が重要であることはいうに及ばないが、当協議会がこれまで、ひたむきな気持ちでいろいろな事業に取り組んできたため、この事業でも県行政とともに考え、実行しうるとの信頼にもとづくものと思われる。

2. エコアクション21(EA21)の概要

千葉県は、工業出荷額が全国第8位で、かつ首都圏の一部を形成しており、わが国の経済の重要な位置づけとして各種の産業が活発である。事業者は組織的な地域環境保全活動が求められるだけでなく、環境にやさしい製品の提供や、ひいては地球規模での温暖化防

止に取り組んでいかねばならない。

その組織活動として事業者が取り組んでいるものにISO14001の認証・登録制度があり、県内でも380の事業者が認証を受けているが決して多いとはいえない。そこで、前述のように環境省が、ISO14001よりも費用面、手続き面でも取り組みやすい認証・登録制度をつくり、中央事務局のほか、非営利な地域事務局を各地に設けて(千葉県では(財)千葉県環境財団内に設置)審査を受けられるような仕組みが整った。

3. エコアクション21(EA21)普及セミナーの開催

この新しいEA21は知名度も低く、どのように取り組めばよいか分からない事業者が多いため、この協働事業では、12月から1月にかけて、県内4地域(松戸・市川・佐原・君津)で、半日コースのセミナーを行う。内容は、「環境問題の現状と事業者の役割」「EA21の取り組みとそのメリット」「事例発表」「質疑応答」「個別相談」などからなる。(参加費は無料)

ぜひ最寄りの会場に足を運ばれて、受講されることをおすすめしたい。詳細は、当協議会のホームページを参照されたい。



公開プレゼンテーション

(國廣 隆紀)

夏休み 親子環境学習会

千葉友の会とともに

当協議会(ECちば)では昨年、佐原市で環境省関東地区環境対策調査官事務所(本年10月より地方環境事務所に改編)と共催で環境学習講座を開催しました。これに続いて本年は千葉市の女性団体・千葉友の会の夏休み行事に協力しました。



スタンバイ！これから環境学習会

7月25日(月)「夏休み 親と子の環境学習会—みんなで進めよう地球温暖化対策！」にはECのメンバー12名が取り組みました。参加者は学童41名、大人37名でした。プログラムは総合的な地球温暖化の状況を説明後、

- ①地球温暖化について学ぼう
- ②電気の節約を進めよう
- ③ごみを減らすことに取り組もう

の項目で講義と実験を交えながら進行しました。

以下「千葉友の会」の大野由里子さんから頂いた報告をご紹介します。

- ① 地球温暖化とCO2の関係は、学校で学んでいることもあり、話を熱心に聞き理解している様子でした。ペットボトルの中でロウソクやドライアイスを入れて火が消えるのを確かめたり、石灰水に息を吹き込み水が白く濁る実験は、積極的に取り組んでいました。



ぶくぶくぶく！

- ② 手回し発電機で明かりをとる実験では、カー一杯回し続けても作り出す電気量が少ないことに驚いていました。白熱灯、蛍光灯、発光ダイオードの消費電力の違いを電流計の数字を見たり、明るさの比較を触ったりして、熱くならないのはどれか確かめ体感していました。

- ③ なるべく再利用を可能にするためにラップやFAXの芯は硬いので、水に浸し、広げて乾かし、雑紙としてリサイクルへ出す、アイスクリームのフタも水に浸し和紙の部分だけ再生紙として出すことなど、興味深く聞いていました。実際に牛乳パックを手で開いて広げ1枚にし、コップを聞きながら、皆で一生懸命やってみました。牛乳パックは子ども達にとって身近で、リサイクルの意識を持っている様子でした。またスチール缶のフタのうち、アルミ素材のものは、缶きりで切り取り分別することで、アルミ資源として活かせることも体験を通して理解できたようです。



慣れない手つきで缶を切る

子ども達の感想は、電気のつけっぱなしがいけない理由がわかった。自分から電気を消すように努力する。ここまで温暖化を進めてしまった私たちはおろかだと思ふ。クーラーをつけても28℃で使う。学習会に参加したことを自由研究にしたい。などなど・・・

CO2が増えると地球の温暖化が進み、電気の節約やごみの減量を実行することで、CO2を減らし、自然環境を守れることを、環境カウンセラーの方のお話や実験を交えて学びました。子ども達に、学習会で知ったことをお友達にぜひ伝えて欲しいと呼びかけました。

私たち親自身も社会を創る一員として環境を守るための意識を高めたい、今、自分に出来ることを考えたいと思いました。CO2の削減に向けて光熱や水の使い方、ごみの分別により再利用が可能になるよう出し方にも気をつけ、家庭で実行していくよう真剣に取り組みたいです。

このように子どもたちも保護者も、また担当したECも共に充実した学習会だったと思います。今後ますます協働して環境学習を行なう必要があると思った一日でした。

なお、(財)日本環境協会の環境ニュースにNPO活動事例として親子環境学習会を報告しました。

(本間 裕)

第1回中小企業環境セミナー

「エコアクション21に取り組もう」が開催された。

主催：環境カウンセラー千葉県協議会を含む4団体

後援：千葉県を含む5団体

日時：平成17年8月26日（金）13～17時

場所：千葉商工会議所

内容：

(1) エコアクション21の取組方法とそのメリット

(2) 事例紹介

① アシザワ・ファインテック(株)

② (株)永光自動車工業

(3) エコアクション21

認証・登録の手続きとそのポイント

(4) 個別相談

であった。エコアクション21に関心の高い中小企業の経営者、環境管理者、行政、環境カウンセラーなど約110名の参加を得て主催者代表及び来賓のご挨拶の後、上記(1)をエコアクション21中央事務局長の竹内様からエコアクション21の特徴や取組みのメリット、効果、ISO14001との比較、認証取得のスケジュール、費用などの説明があった。

(2)の2つの事例紹介ではそれぞれの会社で取り組

第1回中小企業環境セミナー
「エコアクション21に取り組もう」

みの動機、方針、取り組み内容、成果、問題点などの紹介があり、それぞれ環境管理に努力されている状況をアピールされた。

(3)はエコアクション21地域事務局の西田様から認証・登録制度、取組みの手順、費用関係、審査人、コンサルティング、地域事務局の業務などの説明があった。

(4)の個別相談では実施したのは4社であった。その他、アンケート調査では28名の回答がありエコアクション21に対して①既に取組み済6名②詳しい

説明希望19名③取組みを検討中13名④コンサル希望9名であった。今後、同種のセミナー

が開催される予定である。日程は下記の通り。

- 11月17日（木） 県主催 プラザ菜の花
- 12月2日（金） 県との協働事業 松戸市勤労会館
- 12月14日（水） 同 市川市教育会館
- 1月20日（金） 同 佐原市中央公民館
- 1月27日（金） 同 君津市地域情報センター

詳しくはURLをご参照ください。

<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/>

環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵

千葉県立中央博物館の特別企画に参加して

環境学習センター長 林 正 徳

中央博物館の今夏の特別企画「ワクワクたいけん2005、旅する地球の水」に於ける親子向け体験型展示「水フェスティバル」に参加する機会を得、「環境学習センター」のメンバーを中心とする有志で運営しました。

出展は「水はなにから出来ているか？水の電気分解と燃料電池の実験」として二つの項目で構成しました。

展示実験：「水の電気分解」

「生成した水素を燃料電池に送りこみ
“おもちゃ”を動かす」

「分子模型」

体験実験：「備長炭を使用した燃料電池キット」

10台のキットを用意

展示は7月17、28、31日、8月14日の4日間県立博物館ロビーで実施し、環境学習センターだけではなく多数のみなさまにご参加頂いて（延べ20人）、大勢の親子連れの来場者に楽しく有効に説明する事が出来ました。

初回の展示以来、発案者の藤田さんを始め多数の皆様の専門的アドバイスを受け、実験は期間中に安全性、確実性を高める改善がされました。又展示や説明につ

いては市民部門カウンセラーから有益な助言を頂いて、回を追う毎に来場者とのコミュニケーションがよくなり、ひとつの「体験学習テーマ」としてまとまって来ました。参加・ご助言頂いた皆様、本当にありがとうございました。



起電できた？回るかな？

このプログラムは、その後9月18日の「エコメッセージちば」においても実演され、さらに10月の船橋北高校の総合環境学習、11月の八千代市におけるイベントにも展示する予定です。まだまだ改善点も残っておりますが、各地のイベントでご利用を頂きながら改良を加えて「当センターの手持ち学習テーマ」の一つとして、積極的にPRして行きたいと考えております。今後ともいろいろご意見を頂ければ幸いです。

地球温暖化対策センター 報告

センター長 辻川 毅

今年度の地球温暖化対策センターの活動としては、事業部、環境学習センター等と協同で県民に対する啓発事業を進めること、また当協議会の会員が各地元市町村において、関係機関と協調しながら進める市民への啓発実践学習を支援することとしている。

環境省施策への協力として、「チーム・マイナス6%」、「我が家の環境大臣」へ当協議会を団体登録した。これらの事業への取り組みを具体化し、かつ、当地球温暖化対策センター員の情報交換、ならびに連絡を密にするために専用メーリングリストを開設した。

環境省の平成18年度重点施策は、環境先進国として「環境の国づくり」推進のため、「地球社会」と「地域社会」の二方向へ行政施策を拡げるといふ。今後の活動の指針になるであろう。詳細は環境省ホームページ。

炭化炉見学記

10月13日、EC阿部邦夫氏のご紹介で東金市ウッドリサイクル協同組合の炭化炉を見学しました。ここは千葉県の木質バイオマス利活用実用化促進事業として近接の千葉県木材市場（協）から製材時の端材の提供を受け、その炭化利用をはかる研究をしています。

炭化炉は、松戸市のメーカー、ムラマツの開発によるもので、特徴は1000℃と高温になること。そのため、木酢液は発生せず、炭焼き独特のにおいがほとんどなく、3時間で終了します。見学日は炭化炉の稼働は見られなかったものの、出来上がった炭は消し炭のように軽く、しかししっかり炭化されていました。今後は付加価値の高い活性炭製造の研究に取り組むようです。

実用化研究は17年度で終了ですが、引き続き、新用途開発プロジェクトでこの炭化炉で作った炭を使って、農業用資材や生活環境資材、工業用資材などの研究開発が進められ、中でも消費量の多い農業用資材が期待されているようでした。

現在、良好な自然環境保全のためにも林の手入れが必要と言われていますが、間伐材や枝打ち材などの処理が大きな障害で、炭焼きへの関心がたかまっています。炭でのバーベキューは確かにおいしいですが、料理用の用途は非常に少ないでしょう。大量になるとその利用が大きな課題となります。

炭の効用として、民間では健康グッズや有機農業での利用が行なわれていますが、メカニズムがわからないため、公的な機関では認められない面がありました。

今回、炭の利用促進に向けて、農業での効果の立証やメカニズム解明の研究が開始していることは画期的なことと思います。

(佐藤素子)

第1回の環境公開講座が7月23日千葉市民会館で開催されました。（出席者50名）本講座では水環境にスポットをあて、表題のテーマを取り上げました。ご案内のように良好な水環境を常に保持するには「水の循環系」に配慮することがきわめて重要です。

この循環系の内、「涵養」すなわち森林、農地、緑地等の水を貯える機能とその課題について千葉大園芸学部緑地環境学科の唐 常源教授に講演をお願いしました。

1. 講演の概要：

再生可能資源である「水」の基本は地球上を循環していることである。（地球上の淡水量の割合：地下水30%、河川水等0.4% 残り氷河） そのために、水循環、滞留時間、水収支などの基本事項を理解する必要があるとして次のようなスケルトンで講演された。

- ① 水の循環系と流域の水循環構造
- ② 涵養の仕組み、水の浸透及び水質
- ③ 貯留場所と貯留時間
- ④ 地下水の流動と利用
- ⑤ 水環境モニタリング

2. 講演の感想：

地球上の水の循環を「水文循環」と呼ぶが、この関連の講義を受け視野の広がり役に役立った。講演の感想は人によって様々であろうが次の事項が参考になった。

- 1) 水循環の基本単位は流域であること。
- 2) 水循環量は自然域と都市域では降雨量1500mmに対して地下浸透率は自然域が27%に対して都市域は13%と少なく、流出率で自然域40%が都市域では67%と多いこと。
- 3) 汚染発生までに掛かる時間（物質循環）は河川水で数ヶ月～数年間に対して地下水は数年～数十年と遅いこと。

この3)に関連して、自然界と現代社会システムでは物質の滞留時間が関する要因が全く異なるため、必ずミスマッチングが起きること、水環境では次は「核廃棄物」が問題になるのでは？このためにも、長期かつ適切なモニタリングが必要であるとの講演には共感を覚えた。

(古畑 義正)

第1回・環境公開講座

「水を貯える、水を育む」

<キッコーマン野田工場及び本社見学>

8月1日にキッコーマン(株)を訪問した。野田には本社と研究本部と歴史的な醤油の主力工場がある。この度工場を訪れて、我が国で最も大規模な醤油の製造工程を見学した。醤油の醸造工程は大豆と小麦で麴を作り、これに塩水を加えて長時間醗酵させ諸味(もろみ)をつくる。この諸味をナイロン製の長い濾布に包み、折り重ねて最初は自重でゆっくりしぼり、最後に機械でしぼって、醤油と醤油粕に分けて醤油が出来上がる。これが伝統を大切にしたい製造工程なのだそうです。

次に「キッコーマンの環境保全活動について」山次環境部長から説明していただいた。その中で、今注目されている企業の社会的責任の遂行にはグローバルな視野が不可欠であると、国連のグローバル・コンパクトに賛同し、日本で最初に参加した企業であることを再認識させられた。

本社では国際食文化研究センターを見学しました。このセンターには食文化に関するたくさんの書籍や文献、ビデオなどがあり、一般にも公開されています。ここでは映画「醤油樽の物語」を上映していただきました。樽職人の名人が醤油樽を手作りで作り上げていく工程

を詳細に描いたものです。この映画は日本を海外に紹介するビデオコンクールで外務大臣賞を受賞し、また日本産業映画コンクールで経団連会長賞を受賞した作品だそうです。めったに見られない映画をみたという感動を覚えました。

さらに、江戸時代から近年まで醤油の輸送容器として伝統的に使われてきた「樽」の変遷についての話を伺いました。

日本の食文化を代表する醤油のルーツを訪ねた貴重な一日でした。



キッコーマン本社にて
(事業部 茂利 晃)

私の近辺の出来事

松本源寿

同じ千葉県でも東京湾岸沿いの過密地域と私の住む北東部の過疎地域では、日頃環境問題への関心、対応も当然の事ながら随分異なるものだと感じている。

定年退職後家にいる時間が長くなったため、週2回の生ごみ出し、不要紙類の処分等を引受けているが、環境の視点から「これでいいのかな?」と疑問に思う事が散見される。

☆生ごみ出し: 3Rの1つ(Reduce)に無頓着な現状。例を挙げると、庭の雑草や庭木の剪定で出た小枝等も出されているのに気付く。出した当人は自分で処分する手間より出す方が楽だからと考えたのだろう。

☆今や幻の家庭用焼却炉:

巡回して来る、ちり紙交換車が持っていない各種包装紙類や生活上で出る可燃物類の中で、燃やしてもダイオキシンが発生しない事が明白なゴミ類は、10年も補修しながら今も大事に使用して、Reduceに努めている。最近買い換えようと、あちこち探しているが市販されていない。(国の法規制による事は承知している)

2つの事例から国の行政機関や地方自治体は国民・地域住民に対して、環境保全対策の無駄を少なく効率

的に推進していく上で一律ではなく、各市町村の地域の実情に照らしてきめ細かく進めて行く余地が未だ多くあり、経費削減にもつながると思われてならない。

それには、どうすればいいか、日本各地に増えつつある過疎地域の市町村においても、地方自治体の環境関係部署は地域住民の中から環境カウンセラー、環境関係の技術士他、環境保全に関心のある人達を募り、両者一体となって、知恵を出し合い、地域住民の共感、協力を得ながら進めて行く事が、今こそ求められているのではないかと思う次第である。何故なら、ゴミ問題は、地域住民にとって、環境意識を高めるスタートであり、共通のテーマであると思うからである。

役員紹介

小野鈴子

市民部門 東金市 環境学習副センター長
前理事河井さんと他団体で一緒に活動していた折、誘われるままに理事会に顔を出させて頂くようになりました。再度の社会参加の場として興味深く拝聴しているうち、役員をさせて頂くことと成りました。活動できる時間に多少の制約がありますが、市民の視点、女性の視点から環境教育に関わっていきたくと考えております。

地球温暖化の問題をこどもたちと考える

—東金市における取組み

猪坂玲子

連日の猛暑にうんざりすることが、地球温暖化と直結した、身近な問題であることを、東金の小学生は知っています。しかし、平成15年の夏休みを控えた1学期、東金市立小学校9校を訪れた頃は、そうではありませんでした。「地球温暖化と言う言葉を知っているか」と言う私の問いに手を上げるのは、まだ少数でした。学習が進み、現実の夏の暑さとそれに関する報道などに接し、小学生でも身近な危機であることを、今年実感したことでしょう。

東金市は平成12年2月ISO14001の認証を取得し、環境の基本理念として、行政、市民、事業者の協同、協力、協調しながら環境保全の取組みを推進することを、うたっています。環境意識の啓発、普及を図る方法として、平成14年度にキッズISOを小学生に導入しました。NPO 法人国際芸術技術協力機構（通称アーテック）のプログラムです。5・6年生を対象として希望者を募り、環境保全課で行なうことになりました。

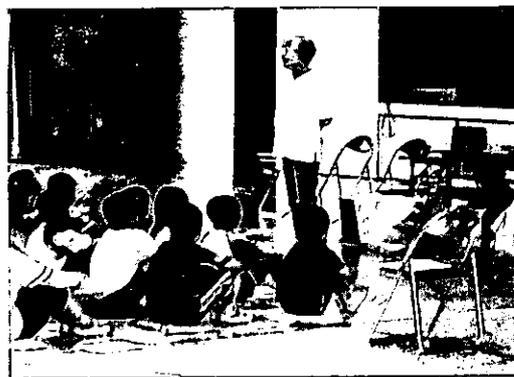
初年度の14年度は、キッズISOのインストラクターとして、児童達の記録や、感想文、保護者からのコメントなどに接しました。使用量だけを問題にしている感が否めず、最も大切な温暖化の意味と、その影響が理解されていないと思われました。

15年度は、初年度に生じた疑問を元に、環境保全課と話し合いを重ね、実施前に説明会を開きました。

募集説明には、環境カウンセラーとして私が環境省企画制作による温暖化防止のためのDVDを8分ほどに編集し、視覚的に地球温暖化とその影響をこどもたちに話しかける方法を取り、ワークブックの実際の記入の仕方、計器の読み方などは、キッズISOインストラクターが行いました。

地球の歴史の中での生物がどの様に生きてきたか、又、そのための環境と平均気温の上昇、その影響のこと。温暖化のメカニズムは現代の生活形態がかかわっていること。防止のための国際的協定のこと。全地球で取り組んでも、CO2削減目標には及ばないこと。

地球全体の異常気象。森林破壊。植物や動物の生態系、分布の変化。伝染病の多発が懸念される。世界人口を養う食料の生産にも重大な影響があること等を伝えました。



募集説明の様子

温暖化防止にこどもでも出来ることはないか、日々の生活のスタイルをふり返りながら、こどもが家庭の中で果たす役割について考えてほしいと、具体例や数字をあげ、時に発言を求めながら、語りかけました。

身近な東金市内の動植物の写真などもカード化しました。温暖化を示す生物の生息も確認されていることを伝えています。

しかし二年目の説明会の実施の効果はほとんど上がりませんでした。そこでアンケートを取ってみると、記入方法が難しい 8.7% 家族が非協力的 7.1% メーターチェックが大変 20.2% 見方が難しい 30.6% 旅行等その他 33.3% となりました。

それを受けて16年度は説明会を年度始めに組み込みました。配布部数は大幅に増えたものの、回収率の改善にはつながりませんでした。

17年度は夏休み前、8校に対して説明会を持ちました。結果がでるのは、2学期以降となります。

今後も問題は山積みですが、ワークブックの内容や、わかりやすい記入方法の検討など、改善が期待されま。重要なのは、教育現場における温暖化問題の取組です。現場で的確な授業を行うため、教員の研修の機会を設け、人材の育成をすることが必要と考えます。

行政と教育現場、市民、企業、そしてさらに地域の温暖化防止推進員の方々との連携が、活動の持続には必要になって来ると思います。

私達の取り組みはまだ始まったばかり、本当の成果は、こどもたちの今後の成長が待たれますが、ワークブックに寄せられたこどもと保護者のコメントが励みになっています。

地球をここまで痛めてしまった大人としての責任を

痛感すると共に、こどもたちには、美しい地球環境と、人間を含む生物の生存と生活のため、未来のこどもたちのために、環境問題を生涯心に止め、生活の一部とする生き方が出来る大人になって欲しいと、切に願います。

「エコメッセちば 2005」

目指せ、資源循環型社会

～熱っばいちば アイスる地球～

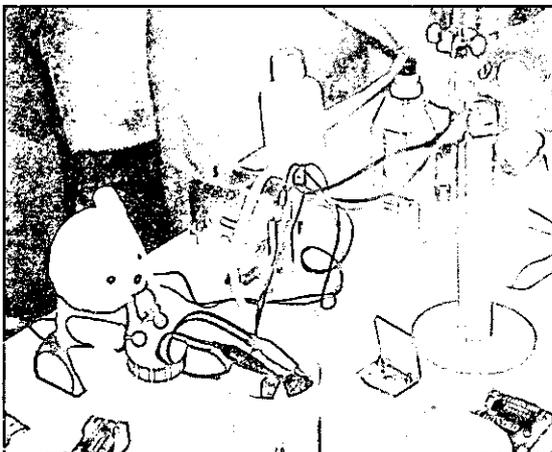
「エコメッセちば」は持続可能な社会の実現を目指して市民・企業・行政のみんなが良好なパートナーシップのもとに協働し開催する環境活動見本市である。

10年目の今年は「目指せ、資源循環型社会～熱っばいちば アイスる地球～」をテーマに、9月18日(日)幕張メッセ・国際会議場で開催された。当日は参加57団体及びエコメッセちば実行委員会が資源循環型社会に関する趣向を凝らした企画を展開した。

来場した約6,600人は、多彩な展示物及びエコステージでの楽しい催し物に参加して、今回のテーマに沿った意識改革が出来たことと思う。「エコメッセちば」の来場者の特徴は、環境展などの催しと比較して、環境問題に熱心とはいえない人達の比率が高いと思われる。同時に開催されている、例えば昨年は恐竜展、今年は親子のゲームショーやポリショイサーカスなどの見物客がエコメッセに寄ることで、環境問題にも関心を示すきっかけになり、裾野が広がることを期待したい。

当協議会は環境省調査官事務所と今年初めて共催し、8月12日(金)さいたま市の調査官事務所での打合せを皮切りに数回の情報交換を交えながら準備を進めた。出展内容はゲームショーから流れると予想される親子を対象に下記内容で分担を決め作業した。(担当:石黒)。

- ・地球温暖化問題に関するパネル(調査官事務所)
- ・環境クイズ及びその景品(調査官事務所)
- ・水の電気分解及び燃料電池に関する実験(林)
- ・省エネカードゲーム「メルルと卵」(本間・倉田)
- ・EC千葉関連の景品(林・石黒)



中央博・水フェスティバルでも活躍した実験機器



環境クイズ・・・

当ブースへの来場者は、午前中はパラパラと少し寂しい状況だったが、午後からは親子連れでにぎわった。特に「水の電気分解及び燃料電池」の実験は人気があり、高校生は理解が早く、高レベルの興味を示し、小さな子どもは電池で動く玩具や風車などから離れずに見入っていた。この実験から省エネ行動に結び付くかは不明だが、興味を持ってもらえる事は最大の希望と思われる。(参加約50名)

省エネカードゲーム「メルルと卵」は10枚のカードに省エネの項目が書いてあり、数人のグループに対し日頃の省エネ行動を対話式でチェックするゲームで、中・高生が素直に、また真剣に考え、反省する姿は今後の行動に期待が持てると思った(参加45名)。

EC千葉からは土田理事長始め11名が運営委員や各ブースで熱心に対応して頂いた。(産廃協・太陽光発電・地球温暖化防止対策 etc.)

調査官事務所が松本次席はじめ4名の方で取り組んだ環境クイズは、積極的な呼びかけにより約150名が参加し盛況だった。

展示にはマイバッグの数々があり、6月に鎌ヶ谷市民環境展で使用したレジ袋の資料及び不用傘によるマイバッグの作り方を、便乗してピンアップさせていただいた。作り方のコピーを欲しいという方もいて、共催の相乗効果を感じずる場面でもあった。

(石黒 忠・本間 格・倉田智子)

「省エネカードゲーム」について

「メルルと卵」のカードは(財)日本環境協会子ども環境相談室を訪れる子どもたちに配布されている。また日環協HPではメルルが主人公の物語が進行中である。ゲーム体験を一度限りにせず興味を持続させる手法となっている。

子ども環境相談員は全員環境カウンセラーで、当協議会からは林・倉田・本間の3名が参加、子どもたちと一緒に楽しく環境問題に取り組んでいる。

総務部からのお知らせ

寄付金 (6月26日～10月2日)
 山本光男様 92,000円
 吉海照直様 21,500円

ありがとうございました。

地方環境事務所の設置

環境省は10月1日から地方環境対策調査官事務所(9ヶ所)と自然保護事務所(11ヶ所)の地方組織を統一し、全国7ブロックに地方環境事務所を設置しました。

従来の地方組織が自然保護の部門と、廃棄物対策や地球温暖化対策などの部門の2系列に分かれていたので統合し、環境施策全般を担当する組織とすることで、総合的な施策を地域連携のもとに展開しやすくするものです。

7事務所以外にも従来の地区事務所、自然保護官事務所等が設置されていた場所を中心に、国立公園等の保護管理や野生動物の保護、廃棄物・リサイクル対策などの業務にあたる職員を配置し、行政サービスの低下が生じないようにしています。

地方環境事務所の組織構成は、下記の通りです。

- (1) 総務課： 事務所の庶務、会計等の総務
- (2) 廃棄物・リサイクル対策課： 廃棄物・リサイクル対策
- (3) 環境対策課： 地球温暖化対策、環境教育、公害・化学物質対策等
- (4) 国立公園・保全整備課： 国立公園の保護管理、整備等
- (5) 野生生物課： 希少野生動植物の保護、外来生物対策等

地方環境事務所は北海道(札幌)東北(仙台)関東(さいたま)中部(名古屋)近畿(大阪)中国・四国(岡山)九州(熊本)に配置されます。

(日環協編集：月刊「かんきょう10月号」より抜粋)

地域情報

- ☆ 東金の炭化炉の製品となる炭は、材料の出所が明らかなので認証の厳格な有機農業に使うことが出来るのが大きな特徴である。実証のためのデータを取る段階であるが、関係者の期待は大きい。この炭化炉の特徴は1000℃もの高温、廃材処理にも適しているようだ。
- ☆ アスベスト問題が話題となっている。まずは前向きな対策が望まれる。環境省 水・大気環境局 大気環境課長 松井佳巳氏による講演を聴く機会があった。正しい情報、正しい認識は不安を取り除くのに有効である。今回の行政の対応は迅速であり、今後の動向に注意を払いたい。
- ☆ リサイクルの輪に乗るのは結構大変。古着はバザーやフリーマーケット、地域の集団回収があるが、それも利用できない向きにお勧め！

http://www.nakano-inter.co.jp/new_page_52.htm

編集後記

- ♪ 地球温暖化の進む中、アスベスト問題を始め公害の再燃と言う渦中で子ども達に何を残せるのかと考えると、暗澹とした気持ちになる今日このごろです。そのような状況の中で、当協議会は県との協働事業に採択されたことを始めとし、環境学習の出前講座など着々と実績を積み重ねています。会員の皆様のご協力と寄稿によるご参加を切に願っております。(本間 格)
- ♪ 炭化炉の見学の際、漂う炭焼きの匂いに京都・鞍馬の火祭を思い出した。由来はともかくこれは「林業」に関わる祭に相違なく、少年から老年まで地域総出で携わっている。世代から世代へと受け継がれるべきは祭のみでなく、地域の産業にも当てはまるのだ。炭化炉は2003年3月に開発メーカーの「ムラマツ」を協議会研修で訪問しましたが、記録はないので、今回寄稿文を掲載しました。皆さまも地域の情報をお寄せください。(倉田智子)

広報 環境カウンセラーちば 第26号 (発行日 2005年11月1日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者：土田 茂通 会員：123名)

URL：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務局：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方 (郵便宛先)

Tel& Fax 043-276-7300 服部 達雄 (各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692 (加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに！

編集：広報部 本間 格・倉田智子・二宮 恵・大山長七郎・松本源寿・石黒 忠・佐藤素子

Tel& Fax : 047-445-3208 E-Mail fwkd4421@mb.infoweb.ne.jp (記事寄稿先)

(古紙100%再生紙使用)

広報

環境カウンセラーちば

第27号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。

環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

新年にあたり思ったこと

理事長 土田茂通

環境カウンセラー千葉県協議会は8回目の新年を迎えました。種々の活動が順調にユックリと前進しつつあることを実感しています。1月8日に当協議会の新年会を開きました。古畑さんの総合司会により今年のキーワードは「健康と継続」……「健全な心と良い健康を保ち、環境ボランティア活動の継続」の願いがこめられた言葉に、まとめられました。その時、私は詩人サミュエル・ウルマンの「青春の詩」を思い出しました。

「青春とは人生のある期間をいうのではなく、心の様相をいうのだ。優れた創造力、たくましく意志、炎ゆる情熱、……歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。人は信念とともに若く、疑惑とともに老いる。人は自信とともに若く、恐怖とともに老いる。希望ある限り若く、失望とともに老い朽ちる」

環境ボランティア活動は私たちに青春をもたらしました。「創造力・遂行力が求められ、自己実現に挑戦する場が与えられている今、私たちは心意気をもち情熱を傾け、ベクトルを合わせて問題解決に立ちむかう年にしたい」と私は考えています。



「加速させよう！省エネの取り組み」講義風景

高等学校の環境学習について

林 正徳 阿部邦夫

平成17年10月27日に、県立船橋北高校・3年生を対象に環境学習を実施しました。同校は船橋市北部の郊外の緑に囲まれた静かな立地で、外部との交流に熱心な学校です。

11月26日の秋期研修会では、この環境学習をテーマとし、各担当講師からの報告・参加者全員での討議が行われました。実現迄の経過・実施内容・秋期研修会における討議内容等は以下の通りです。

A. 実施計画及び経過

昨年3月先生から環境学習センターに「出前授業」の依頼がありました。対象は3年生180名、20名～30名の小グループ・2時限構成の環境学習講座という構想でした。さらに「自分達の行動が社会にどのような影響を与えるかを知り、環境問題を考えるきっかけづくりにしたい。その為に体験・実験・学習を中心に五感に響く学習をお願いしたい」とのことでした。

これをうけて、実験・体験を主体とした学習テーマの選定に入りました。

- 1) 既に実績のある体験学習メニューの他、新たなテーマを加えて10項目程度提案する
- 2) 担当講師は正副二名・学校の所在地近隣で活動中のカウンセラーに依頼する

等の基本方針を固め、テーマの公募を行いました。それらは11項目にも及びました。

決定したのは8項目で、環境学習センター運営会議で担当講師を中心に内容を詰めていきました。9月中旬には共通仕様のテキストをまとめ、この間担当講師連は学校を訪問し、現場、使用機材の確認、先生方との事前打ち合わせを行いました。

B. 実施内容

1. 燃料電池「燃料電池を自分で作って理解しよう」

藤田忠宏、林 正徳

2. 省エネルギー「加速させよう！省エネの取り組み」
戸村 泰 服部達雄
 3. 太陽光電池「太陽光発電で地球を救う」
小関光二 平間稔夫(太陽光発電ネットワーク)
 4. 廃棄物処理と不法投棄
「モッタイナイの心で廃棄物を見直そう」
大山長七郎 石黒 忠
 5. バイオマスの活用
「牛糞で自動車が走るってホント？」
阿部邦夫 鹿嶋和子
 6. 水質と測定「君も分析者」
長内悦子 古畑義正
 7. 水環境「命をはぐくむ水」
倉田智子 佐藤素子
 8. 自然環境保護「楽しみながら学ぶ環境学習」
山口由富子 鈴木恵子
- 当日はマスコミ二社の取材もありました。

C 高等学校環境学習に関する意見総括

11月26日に開催された秋期研修会では各テーマ30分の時間割りで発表と質疑応答を実施、「今後の展開について」のグループ討議が1時間行われました。テーマ毎の意見・提案は次の通りです。

1. 生徒と先生を味方に
2. 教える方の熱意が伝わるように
3. 難しい数式は使わない、使う時は最後の方に
4. 実験や体験を多く取り入れ興味を持たせる
5. 生徒・講師間のジェネレーション・ギャップを認識する

6. テーマの選定は面白くて興味が持てるもの
7. 学校側の意見・評価は？
(注) 今後反映すべく、実施当日出席された先生全員にアンケートを依頼中。
8. 生徒からのレポートに対しては、「講義の内容がどの位伝わったか心配だった。しかし、予想を超えた良い反応であった」ことから、提出レポートへの記入は、生徒との交流を重視するコメントとする。

D 今後の高等学校環境学習の展開

- (1) 来年度継続実施を図る
- (2) 今回の実施事項をまとめた資料を作成、応用をはかる
- (3) 教材整備、テーマのレベルアップを図り、環境学習公開講座を計画する。

今回の環境学習はカウンセラーそれぞれの活動分野を切り口として環境問題の重要性を訴えたものです。世代の違いを超えて講師陣の熱意だけは確かに伝わったことでしょう。この手応えを足場にさらに相手に伝わる学習へと改善を図るのが今後の課題だと思います。

よりわかりやすく印象に残る実験・体験を骨格として「質の高い体験学習」を目指して「PDCA」を念頭に改善を進めます。

来年度は出前講座、各種イベントの出展にも積極的に対応し、各方面のご批判に応えながら内容をアップしていきます。より多くの皆さんの参加を歓迎いたします。

環境教育についての現状と今後の方向

千葉県立中央博物館環境教育研究科

小川かほる

1. はじめに ーお礼ー

千葉県立中央博物館は企画展「ワクワクたいけん 2005 旅する地球の水」を2005年7月、8月に開催しました。この関連イベントの「水フェスティバル」において、水の電気分解・燃料電池に関する体験型の教育プログラムを貴協議会にご提供いただきました。厚くお礼申し上げます。その発端は、千葉県総合教育センター主催の平成16年度自然科学公開研究会(2004年12月)「千葉県型環境教育をめざしてーNPOに学ぶー」でした。

さらに、ここで貴協議会の「高等学校の環境教育授業」に発展する出会いがあったことも、企画に関わっていた者の一人として、大変うれしい出来事でした。



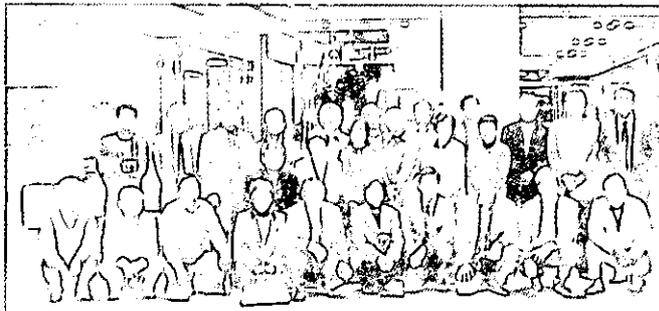
秋季研修会基調講演 小川かほる氏

2. 高等学校の環境教育授業

この事業の素晴らしいところ

- ・ 高等学校において、市民団体が環境学習の講座を、それも8講座を同時に開催したこと。講座数が多いということは、生徒が選択できる、つまり自己決定のプロセスをつくれたことになります。
- ・ 講座開催までに、10回もの打ち合わせを行ったこと。先生も皆様も大変だったでしょうが、協働のプロセスには必須のことで、ここに信頼感が育まれると思います。
- ・ 終わったあとも、ふりかえりを行い、情報を共有し、できる人を増やし、次につなげようとしていること。

皆様の社会の先輩としての豊富なキャリアをこれからも若い人に見せてあげてください。そして、個人（環境カウンセラー）としても社会貢献できること、またグループ（協議会）として協力して活動することによって、より活動の幅が広がることを伝えて欲しいと思います。



05.11.26 OVTA一階ホールにて

3. 環境教育でめざす人間像

「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が2003年(平成15年)に制定され、これに基づく政府の取り組みを示した「環境保全の意欲の増進及び環境教育の推進に関する基本的な方針」(2004)のなかで、環境教育の目指す人間像として『環境教育については、知識の取得や理解にとどまらず、自ら行動できる人材をはぐくむことが大切です。環境教育を通じて、人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成することを目指します。』とあります。

また、国連持続可能な開発のための教育の10年(2005~2014)がスタートしました。持続可能な開発を通じて、全ての人々が安心して暮らせる未来を実現するために、一人一人がさまざまな課題に協力して取り組むことが必要です。そうした未来へ向けた取り組みに必要な力や考え方を学び育むことが必要です。

私は、環境教育は持続可能な社会を目指して、例えば開発、貧困、平和(戦争)人権、人口、食糧・資源エネルギーなど、地球的な課題と複雑に関連しあっている環境問題を解決あるいは未然に防ぐために主体的に行動できる人間の育成を目的としていると考えています。今後は、ますます“連携”や“つながり”という言葉がキーワードになってくると思います。今後とも、連携をよろしくお願いします。

平成16年10月より野田市の企業で環境問題の窓口として、ISO14001等の相談、浄化槽設備の実情調査、および提案等を行っています。

現業においては浄化槽や排水設備の調査、改善、提案が増加しています。

最近では「みなし浄化槽」・・・旧式浄化槽においては環境保全と企業の環境貢献を前提に「合併浄化槽」に入れ替えを提案するケースが2件ありました。それは「RC長時間ばっ気式浄化槽+三次処理」を「合併浄化槽」に入れ替えをするものでした。その他は浄化槽の設置条件が悪く、浄化槽が破損をしているものが2件あります。こちらは浄化槽の補修工事では対応できないもので、「合併浄化槽」への入れ替えです。なぜこのような事態になったかが問題になりますが、専門技術者「浄化槽設備士」、

私の環境活動報告

上口清彦

「土木施工管理技士」が機能していないケースが考えられます。またコストの低減を優先するあまりに、浄化槽設置に資金をかけなかったこともあります。両件ともに、「合併浄化槽30人槽」ですが、店舗、倉庫など借用している場合、浄化槽も設備になるため、所有者が工事費を負担することになります。そのため、費用ばかりでなく、浄化槽の設置方法(工法)、工期、さらに放流水のBOD等、提案に対して具体的な説明を十分行う必要があり、事態を困難にしています。

これから地道に地域密着し、ISOの取得を目指す企業への支援、「浄化槽」「工場排水処理施設」等の放流水の法令順守のため、微力ながら活動をいたしたく思います。またECでの「水環境研究会」の活動も楽しみにしています。

これからの地道に地域密着し、ISOの取得を目指す企業への支援、「浄化槽」「工場排水処理施設」等の放流水の法令順守のため、微力ながら活動をいたしたく思います。またECでの「水環境研究会」の活動も楽しみにしています。

これからの地道に地域密着し、ISOの取得を目指す企業への支援、「浄化槽」「工場排水処理施設」等の放流水の法令順守のため、微力ながら活動をいたしたく思います。またECでの「水環境研究会」の活動も楽しみにしています。

エコアクション21 セミナー開催

1. 松戸・市川・佐原・君津4ヶ所で開催

先の当広報 26号で報じた通り、エコアクション21(EA21)普及セミナーを、県との協働事業として下記の4ヶ所で開催した。

| | |
|------------------|-----------|
| 県北：松戸市（勤労会館） | 12月2日（金） |
| 県西：市川市（教育会館） | 12月14日（水） |
| 県東：佐原市（中央公民館） | 1月20日（金） |
| 県南：君津市（地域情報センター） | 1月27日（金） |

いずれも半日コースで、講演内容は

- ① 主催者挨拶：県環境生活部及び当協議会代表
- ② 環境問題の現状と事業者の役割：45分
- ③ EA21の取組とそのメリット：1時間
- ④ 事例発表：県内2社（各30分）
- ⑤ EA21認証・登録手続きとそのポイント：30分
- ⑥ 質疑応答：15分

上記②、③、⑤の講演は当協議会のEMS支援センター活動者が担当した。又、終了後に希望者に対して個別相談を行った。

2. 準備作業

「県とNPOとの協働事業」として8月後半に採択されてすぐ、開催都市の検討に入り、上記4都市が選ばれ、各市役所の協力を得て会場の予約が出来た。一方、EA21地域事務局、(社)県商工会議所連合会、(社)県産廃協会などの後援取り付けに奔走した。

然し、最大の問題は何と言っても「人集め」だった。幾ら無料とは言え、千葉で8月、11月に開催した2回が主催者側の人数を含めてやっと100余名だったので、県内各地で100名を目標にするにはかなりの困難が予想された。1万枚を超えるチラシを自分たちで印刷し、県を通じて各自治体への配布をお願いした以外に、仲間で県全域の分担を決めて各地の自治体、商工会議所、各種団体を訪問して配布を依頼した。車にチラシを積んで、郡部の役場、商工会などをしらみつぶしに廻ったり、工業団地の戸別配布等も行った。

又、当協議会のホームページは勿論、後援各団体、協力各自治体にもホームページに掲載して貰い、各地商工会議所会報などにも記事を掲載して貰った。

3. 結果と分析

参加者数は主催者側を含めて、松戸58名、市川75名、佐原61名、君津48名、4会場合計242名、平均61名で、目標にはかなり及ばなかったが、100名以上を想定して準備した会場がそこそこ人で埋まった感じがする迄にはなった。

回収したアンケート結果によると、講演で人気があったのは③「EA21取組とそのメリット」と事例発表だった。やはり苦労談に関心が集まり、「廃棄物の分別な

ど、パートの女性が先頭に立ってやってくれ、男性の常勤社員より頼りになる。」との話が出たりした。参加人数が目標に及ばず、多めに用意した資料が残って、やはりEA21知名度の低さを痛感した。会場を提供して下さった某自治体が市民対象に調査をしたところ「エコアクションを知っている」との回答は「ISO14001を知っている」の約1/10だった由。

救いは、産廃業者の参加が目立った事だった。産廃業者の評価制度が既に施行され、その評価項目の1つに「環境保全への取組み」が含まれている事から、産廃協会にもチラシを多数渡して配布を依頼する一方、協会加盟の各社にダイレクトメールを行った結果、かなりの効果が見られた。

4. エピソード

*個別相談で有名企業の下請会社が親企業からISO取得を要求され、「エコアクションでは駄目か」と言ったら「それは何だ」と言われて困っているとの相談を受けた。

*2会場終了後の反省会で、「居眠りしている参加者が見られるのは講演内容が面白くないのか、話のしかたが悪いのか」との意見が出され、その後の会場では講演者が聴衆に色々な問いかけをしたりした。

君津会場では最前列から監視していた仲間までいた。
*佐原会場では茨城県神栖市から8社の参加があり、利根川を挟んだ兩岸の人の交流が印象づけられた。

5. 今後の普及活動

アンケートで、「コンサルタントについて相談したい」と回答頂いた事業者は勿論フォローするが、「もっと詳しい説明を聞きたい」との回答もかなりあり、メールや文書だけでなく、EMSセンター内で分担を決めて電話してでも積極的にフォローし、取り組んで貰えるように持って行かねばならない。

来18年度も引き続き普及活動を行っていく必要があり、具体的な活動計画を早急に検討したい。

EMS支援センター副センター長 西田啓作



「全国地下水サミット 2005」

久本泰秀

2005年10月1日(土)、木更津市の「かずさアカデミアホール」で「全国地下水サミット 2005」の第2日が開催され、約300名の参加者がありました。

初めに今回の基調講演「雨を生かす～21世紀の水危機打開の切り札」国際雨水資源化学副会長 村瀬 誠博士の講演が約1時間行われました。とにかく雨水を有効に利用するために大道具小道具を工夫し世界に紹介している様子が縷々紹介され、お話の上手さもあって聞きほれてしまいました。発展途上国相手の提案は、お金を掛けず、有り合わせの道具による簡単なものが有効との示唆であろうと思いました。

次に各分科会に分かれましたが、第1分科会は学術関連で、「健全な水環境における地下水の役割一質と量の観点から」と題して、沖縄県平良市、市川市、千葉大からの話題提供で進められました。特に、「市民雨水条例の事例発表(市川市水と緑の部)」、「谷津の自然環境を利用した環境学習(市川市自然博物館)」等市川市の提案がきめ細かな市民活動として注目を集めました。

第2分科会は、地域関連で、「印旛沼浄化活動の事例を中心に」NPO 法人水環境研究所の方がコーディネーターになり、印旛沼で活動している4つのNPOからの異なった視点の話題提供でした。

第3分科会は、企業関連として、「地下環境の保全と利用」をテーマとして行われ、地下水汚染、廃棄物、測定技術、汚染調査手法等に付き話題提供されました。私も「神栖町の地下水汚染の課題」について話題提供いたしました。

神栖町では、今でも調査修復が行われており、地下水汚染の原因が、旧日本軍の化学兵器由来有機砒素化合物であることは確かですが、いったい誰が何処から廃棄物として持ち込み埋めたものか断定できておりません。警察も調査を始めました。それにしても、地下水を一旦汚染してしまうとこんなに大変で、金の掛かることになる見本ではないでしょうか。

第4分科会は「第2回上総掘りサミット」と称し上総掘り技術普及をテーマに行われました。

本サミットは、市川市が主催市となり、水資源の保全として水環境の視点に立ち、地下水を中心とした討議、発表が行われました。特に千葉県の地域に埋もれている種々の関連テーマが発掘され、全国に発信できたことは大きな成果であったと思います。

白井市環境フォーラムに参加して

大山長七郎

「自らの手で守ろう、ふるさと白井の自然と環境(地球温暖化とこどもたちの未来)」をテーマに昨年12月3日白井市文化会館でフォーラムが開催された。

最初の事例発表をした白井市立第一小学校、第二小学校の小学生達は、自分達が白井市環境を守るのだという熱心が伝わってくるものであった。行政とそれに協力する環境団体、さらに市民がフォーラムに参加し活動する姿勢や、テーマの大切さをこども達が理解しているからだと思った。

環境省地球温暖化対策課の大橋卓巳氏が「地球温暖化防止に向けて私たちにできること」について講演された。ホール一杯の市民が熱心に耳を傾けているのを見て関心の高さを知った。他所でもかかる講演が必要と思った。

展示コーナーでは、参加団体のパネルが多数展示され、見学者に責任者が説明していた。当協議会のコーナーでは、温暖化現象のパネルのほかに、廃棄物不法投棄の現状と、「焼却しないで資源としてリサイクルしよう」というパネルと、サンプルを展示した。白井市内にも廃棄物不法投棄があり、リサイクルの手段に関心を示す市民がいたので、フォーラムには今後も参加し、一人でも多くの市民が白井市の自然と環境に関心をもって頂けるよう、協力したいと思っている。

第2回 環境公開講座

「スクラップ経済からストック経済へ」

本間 格

平成17年9月17日(土)午後2時から千葉市民会館において第2回環境公開講座が開かれた。講師は千葉県印旛地域整備センター用地課長の石渡正佳氏にお願いした。参加者は50名程であった。

石渡氏の略歴は、1996年から産廃行政に携わり、産廃Gメン「グリーンキャップ」の創設に関与し、また全国最大級の不法投棄多発地帯だった銚子地域の監視チームのリーダーとして、同地域の不法投棄ゼロを達成した。

千葉県は不法投棄のワーストワンから如何に這い上がったか、軽妙な語り口と生々しい写真が示された。特に銚子市郊外の不法投棄の現場から火災が起きた時の模様は強烈であった。ごみの山の中にトンネルのような空間が出来、その中を空気が抜ける時に火災が広がり、蟻の巣状に拡がるのである。また、軽油の密造の時に発生する硫酸ピッチの不法投棄の在り様を目にした。可搬式の密造工場、硫酸ピッチの入ったドラム缶の数、ドラム缶が腐食し漏れ出した硫酸ピッチの写真からそのひどさが判った。

不法投棄をなくすには、法規制の強化と優良処分事業者の育成が挙げられる。法規制の強化は罰則の強化(不法投棄の罰金は数十万円から企業の場合は億単位になった)であり、さらに排出事業者に対しても不法投棄をした業者に依頼したことが判れば撤去義務が生じた。

優良処分事業者の育成はまだ緒についたばかりだが、処分事業者からの情報開示により、排出事業者が優良処分事業者へ処理・処分を依頼しやすくした制度があり、それは自ら優良処分事業者と認める者は、会社情報、許可内容、施設及び処理状況、財務諸表、遵法性・環境保全への取組みなどを「産廃ネット」でweb公開するというものである。

「スクラップ経済からストック経済へ」というテーマに対しては、我国は今、循環型社会を目指しているが、家屋を一例として、短年で価値がなくなり廃棄されている現状を、欧米諸国の様に価値を長く保てる施策が必要ではないか、という提言であった。

総務部からのお知らせ

1. 総会開催予定

- ・月日：平成18年5月28日(日)
- ・場所：千葉市民会館(第3・4会議室)
- ・時間：13時～17時

☆ 詳細は4月下旬にハガキでご案内します

2. 寄付金

期間 2005年10月3日～2006年2月4日

廣川一男様 21,000円 西田啓作様 6,600円
山本光男様 42,500円 有馬富穂様 1,500円
福井信行様 1,350円

ありがとうございました。

ECU 便り

2006年はECU設立5周年、環境省の環境カウンセラー制度(EC制度)が発足して10周年の年にあたります。また、ECUは、今年4月、2年ごとの改選期でもあり役員を選出があります。

環境省にとっても、7つの地方事務所の体制も整い、いよいよ新しい飛躍の年でもあります。ECUは早くも来期の活動計画についての議論が高まっています。

1. EC制度10周年及びECU設立5周年記念行事の計画一(案)講演会、記念誌、大臣表彰、ECU表彰
2. 各地方事務所との協議の場の設営
3. 各種委員会の次年度の活動計画
4. 新役員を選出

などが当面の課題です。皆様のご協力をお願いします。

地域短信

♪ 八千代市サポセン祭(05.11.3)に有馬氏・野口(康)氏・種本氏が参加、博物館やメッセにも登場した水素発生のおもちゃで、こどもたちの人気をさらった。

♪ 八千代自然と環境を考える会(代表佐藤素子さん当会会員)は「在来野草保存活動10年の歩み」(保品野草保存園記録集)を発行した。NPO活動の底力を感じる冊子である。頒価200円

編集後記

個人情報保護、プライバシー、こども達のいじめの問題等々、日常気をつけている様で抜けており、特に学校現場に対して配慮が欠けていることを痛感しました。今後はもっと相手の立場に配慮した編集を心がけるつもりです。 本間 格

ある日見た進学塾の広告に合格者の名前がない! 運転免許証は身分証明にならない場合もあるなど社会変化を感じるものが出てきました。広報にも変革が必要なようです。 倉田智子

広報 環境カウンセラーちば 第27号 (発行日 2006年 3月1日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会(発行責任者：土田 茂通 会員：124名)

URL：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方(郵便宛先)

事務局：Tel&Fax 043-276-7300 服部達雄(各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692(加入者名：NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会)会費はこちらに!

編集：広報部 本間 格・倉田智子・二宮 恵・大山長七郎・松本源寿・石黒 忠・佐藤素子

Tel&Fax : 047-445-3208 E-Mail fwkd4421@mb.infoweb.ne.jp(記事寄稿先)

(古紙100%再生紙使用)

平成18年度の活動計画の骨格について

理事長 土田茂通

NPO 法人となり4年目を迎え、5月28日に総会を開催し、平成18年度の活動計画が承認された。

EC 千葉の活動は徐々にではあるが、一つ一つ確実な活動の積み上げが評価され、千葉県内で信頼と信用が得られつつあると考えている。各会員の一人一人の特色を生かした活動はもちろん、個々の力を組織化して特色のある創造的な活動をすることに EC 千葉の存在価値が生まれると考えている。

平成17年度に新たに始めた活動「エコアクション普及活動、環境教育・環境学習の新展開、公開環境講座、ISO14001 内部監査員養成講座」などの当協議会の特色を生かした事業が、育ちつつある。平成18年度にはそれらの活動を更に充実させていくために、活動計画の骨格は次の通りとした。

その一つは、昨年度県との協働事業も展開した「エコアクション21」(EA21)の普及活動であり、新企画の施策を展開させ、大きな事業の柱に育てるための基盤づくりである。そのために、EA21 地域事務局、千葉県環境財団との協力体制を更に進める。

次は、環境教育・環境学習の推進で、昨年実績を作った中学校や高等学校への出前講座の更なる展開である。県立高校における環境教育は引き続き本年度も実施することが決定している。環境学習センターを軸にして、地球温暖化対策センター、廃棄物対策センター、水環境研究会が協力体制で臨むことにより、当協議会の特徴を生かした事業の柱にすべく推進することとする。

平成18年度事業部・事業計画

①第15回環境セミナーを5月28日に第4回通常総会の特別講演として開催しました。テーマは「地球温暖化対策をめぐる課題と展望」で講師は埼玉県環境科学国際センター総長で中央環境審議会地球環境部会長の須藤隆一氏にお願いしました。

②「エコメッセ2006 in ちば」(9月3日)及び以下の各地域で開催されます環境イベントに参加します。
 ・四街道市ごみ減量・不法投棄防止展(6月6日)
 ・暮らしと環境を考えよう IN 袖ヶ浦(6月10日)
 ・鎌ヶ谷市市民環境展(6月18-23日)
 ・東金市アースセレブレーション(1月)
 ・2006 ちばし環境フェスティバル(1月)
 ・白井市環境フォーラム(1月27日)

③第10回、第11回企業見学会を開催します。
 ・企業見学会(9月、成田空港)
 ・施設見学会(1月、内容未定)

平成18年度EMS支援センター事業計画

1. 研修及び内部の活動

(1) 運営連絡会議の開催

運営に関する事項を決定する。

原則として毎月第一日曜日に行う。

(2) 幹事会の開催

原則年2回5月と2月に行う。

5月 活動計画の具体化

2月 年間活動レビューと新年度活動の骨子検討

(3) 研修会の開催

ISO14001 及び EA21 等の支援に必要な知識の習得及び情報交換を行う。

2. PR活動

(1) 企業環境セミナーの開催

(2) 地域環境セミナーの開催

(3) 九十九里 ISO ネットワーク協議会及びイベントへの参加

(4) 内部監査員養成講座の開催

(5) EA21 普及活動の実施

①IGES の自治体イニシアティブを実現したい。

②産廃業者に評価制度の本年10月施行を再認識して貰い、EA21 に早急に取り組んで貰う。

③昨年のセミナーに参加した事業者のフォロー

④EA21 普及セミナーの開催

⑤EA21 普及員養成セミナーの開催

⑥千葉商工会議所広報に4回の連載記事掲載予定

(6) その他

地域毎に責任者、担当者を決めて行政及び企業を訪問し、PR活動を行う。

3. 支援活動

(1) ISO14001 構築及び維持支援並びに関連セミナーの講師派遣

必要により ISO9001 及びその他のマネジメントシステムについても支援を行う。

(2) EA21 構築及び維持支援並びに関連セミナーの講師派遣

(二宮記)

事業部計画続き

④第8回研修会(11月、テーマ未定)を開催します。

⑤環境公開講座を開催します。

・第1回エネルギーと環境問題(9月)

・第2回自動車と環境問題(2月)

⑥水環境研究会を随時開催し、水環境問題の啓発活動を中心に活動します。

皆様の多数の積極的なご参加をお願い致します。

(茂利記)

平成 18 年度・廃棄物対策センターの活動計画

平成 18 年度は廃棄物のリサイクル、不法投棄防止と地球温暖化防止の 3 本柱を中心として資源循環型社会の形成推進に努力する。先日テレビで家庭からのごみ不法投棄が大幅に増加していることが報告されていた。千葉県内の各地で産業廃棄物の不法投棄が問題になっている上に一般家庭廃棄物の投棄が上乘せされてきている。従来より家庭から排出される粗大ごみの処理については、県内自治体で多額の費用をかけて処理され焼却設備や粗大ごみ処理設備の新設、維持には市民の税金が使用されているのである。

各自治体ごとに毎年、環境フェアが開催されるので当センターとして、平成 18 年度はフェアに参加協力して千葉県の環境再生を市民、事業者へ啓発していく計画である。

5月 15,16日 (月/火) 四街道市温暖化防止 PR
5月 20日 (土) 八千代市(残土ネットワーク)
7月 11日 (火) 四街道市講座
9/10月 (社) 千葉県産業廃棄物協会セミナー
10月 12日 (木) 船橋北高の環境教育講座
1月 27日 (土) 白井市の環境フォーラム参加
3月 白井市講座 (大山記)

「アスベスト問題にどう対処したらよいか」

当協議会が今年度初めて取り組んだシリーズ環境公開講座は第 3 回を迎えた。「アスベスト問題」について、市民の立場からどう対処したら良いかを、アスベスト業界の専門家に伺った。

平成 18 年 1 月 28 日 (土) 午前 10 時~12 時、会場は千葉市民会館、講師は、社団法人日本石綿協会処理部会長 平井良夫氏にお願いした。平井氏は、日本石綿協会として、全国を飛び回って、アスベスト問題について講演をされておられ、超多忙の中 50 ページに及ぶ講演資料とアスベストや関連建材サンプルなどを持参された。「対処法」は、

- ① アスベストの正しい知識を持つ、
- ② アスベストの正しい管理、
- ③ アスベストの監視、
- ④ アスベストの無害化や処理方法の研究

の 4 項目を上げた。その中から印象深い 2~3 を紹介し講演の報告としたい。

1. 材料ごとの粉塵飛散性のレベル又、工法により飛散性が高くなることを把握する。吹きつけアスベストなど急を要する問題だが、正しい計画を立て完璧な工事を行うべし。
2. 飛散性の低い材料 (レベル 3) については、撤去工事及びその後の廃棄処理が問題となる。産廃場不足が深刻でコストが上がり不法投棄が増える可能性があり監視が重要である。
3. 解決策の 1 つとして、比較的安価な 1,000 度での熔融法で無害化する技術の研究開発は興味深い。

参加者は 40 名程で、広く当講座参加を呼びかけたチラシや HP、幾つかの情報 Web などを見て参加された市民が主体であった。環境講座に参加された方から感想をいただき、この講座がお役に立てたのかなとうれしく思った。
(戸村 泰)

不法投棄の現場 廃棄物対策センター・大山氏提供



アスベスト講習会に参加して

茂原市

久保田 隆

アスベストの有害性については、1970 年代から指摘されてきましたが、ここに来て、沈黙の時限爆弾が爆り出した感じです。アスベストに起因する発ガンの潜伏期間が 20~30 年ということは聞いていましたが、ここまで大きな社会問題になってくると、不安になります。一般の人たちも不安だと思います。

アスベストを原料とした、スレートの屋根・保温材・吹き付け材等は、身近にいたるところに存在していて、知らず知らずに曝露されていると思うと複雑な気持ちです。私の友人に除去作業をしている社長がいますが、危険性が高い上に、作業員の力量が問われるため、人的資源の確保が難しいと言っていました。

ここまで、この問題が表面化してきたのであるから、このアスベスト問題は、是非とも国の主導で解決してもらいたいと思います。

平成 17 年度県との協働事業

『中小企業向け環境経営システムエコアクション21の普及事業』 成功裡に終了！！

4月15日(土)千葉県労働福祉センターで開催された成果報告会で國廣副理事長が報告して本事業を締めくくった。主な内容は以下の通り。

1. 事業概要

エコアクション21(EA21)普及セミナーを、中小企業の経営者、地方公共団体等を対象として下記の4ヶ所で開催した。

- (1) 12月2日：松戸市 (2) 12月14日：市川市
(3) 1月20日：佐原市 (4) 1月27日：君津市
講演内容は

①環境問題の現状と事業者の役割②EA21の取組とそのメリット③事例発表：県内2社④EA21認証・登録手続きとそのポイント

2. セミナー開催のPRと参加者募集

①セミナー開催のチラシの配布②県の情報連絡ルートからのPR③メンバーの口コミと足でPRなど

3. 事業成果

4会場で合計242名の参加を得た。参加者の関心は高く、質疑応答も活発であった。

4. 達成度

- 各会場100名の参加を目標としたが、予想以上に参加者を集めるのに苦労した。
- 知名度の低い「エコアクション21」のセミナー開催の呼びかけを行ったことは、参加は得られなくても、普及の第一歩として達成できた。

5. 波及方法及び効果

- アンケートは81名から提出され、意図した目的が達成できたことを確認した。
- それらの企業の内EA21に10数社がすでに取り組んでいると考える。

6. NPOから見た協働の効果

- 県との協働については、県の情報連絡ルートを利用し、NPO単独では及ばないPR効果があった。
- EA21の普及活動は意外に大変であることが分った。今後、継続して地道でも普及が及ぶまで努力を惜しまないことが必要である。
- 自治体、商工会議所、商工会などとの協働
今回は県及び開催地の自治体との協働であり、それなりに効果が上がった。
その他の自治体、商工会議所、商工会、工業団地などとの協働も今後推進したい。

(環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵)



成果報告会

7. 今後の展開と課題

(1) 平成18年度以降の事業展開

- 継続して同種のセミナーを実施し、認証取得希望企業を発掘して、取り組みのための個別支援を続ける。
- 「地方自治体イニシアティブ事業」を行政と一緒に推進する。
- 県の産廃事業者の優良性の評価制度への取り組みの支援を行う。

(2) 人材・財源の確保

- 人材については、我々のNPOの内部にも豊富に確保できる。(例えば審査人18名が所属)
- 財源についてはEA21中央事務局及びEA21地域事務局千葉県環境財団との連携などで確保する他あらゆる財源及び助成制度を活用したい。

(3) 他の主体とのネットワークの構築

- EA21地域事務局千葉県環境財団との連携
- 千葉県環境生活部資源循環推進課への協力
- 地方自治体との連携

(4) 上記の事業展開等を実現する上で問題となること及び課題・財源の確保・EA21の知名度向上の効果的方法手段の模索

報告の後、協働事業選考審査員から、つぎのコメントをいただいた。

- 大変に重要なテーマをよくやってくれた。
- EA21は知名度が低いですが、分かりやすい説明を考えて普及して欲しい。
- 取り組みのメリットとデメリットを明確にして説明したらどうか。
- 取り組んだ事業者の事例をPRすればよい。
そのために県のHPに事例を掲載したらどうか。
本事業はこれで終了したが引き続き知恵を絞ってEA21普及活動を推進しなければならない。

松戸一中の出前授業

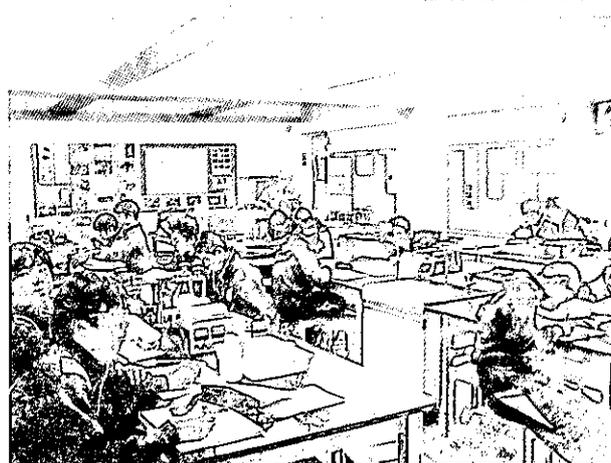
林 正徳

平成17年12月8日松戸一中で「燃料電池」の出前授業を行いました。今回は環境学習というよりも「理科」の色彩の強い授業でした。藤田・林・土田が参加しました。

理科担当の高城先生と十分な打ち合わせを行い、「いろいろな電池の原理を理解し、更にもう一度電池の種類を限定して深く勉強する」という授業の意図を知りました。17人と18人の二つのグループに対して各1時限、繰り返し実施するものです。

先生が実験の区切りでしっかりと「水の電気分解」と「発生した水素を利用しての燃料電池」の二つの現象の意味を纏めて下さったので、内容の理解も確実に進んだようです。

まとまった「まとめと質問」の時間がなくなってしまい残念でしたが、後から先生を通じてよせられた質問には、着眼点の優れた鋭い質問も見うけられ、改めて確かな手応えを感じた授業でした。



私の近況

鈴木茂夫 (監事)

若い仲間とともに地元で立ち上げたNPO法人の2代目の理事長として、現在文部科学省が全国展開している地域子ども教室実施団体のひとつになって、毎土曜日に特別なプログラムで活動を進めています。

また、昨年度は県が発行しているNPO情報誌「さあ！NPO」の制作を担当してきました。今年度も受託してスキルアップが図れたらうれしいことだと考えています。国や県から受託して行う仕事は分からないことが多くて日々緊張して過ごしてきましたが、最近は少しずつ要領が分かるようになってきました。

健康を害さない程度に無理をして過ごしていくつもりでいましたが、4月の初めに風邪をこじらせてしまい、どうにもならなくなって受診したところ、中程度の肺炎と診断されてそのまま入院となり、病院内での生活を初体験しました。

医療の現状には不満もありますが、ベッドに空きが無い中での緊急対応に感謝の気持ちがわきました。私にとって散々な年度の始まりでしたが、今年度はどんな年にできるのか、当分気が休まることがないだろうと考えている今日この頃です。

アースセレブレーション IN 東金

環境学習副センター長 小野鈴子

1月14日(土)、東金市の環境イベント「アースセレブレーション2005」/『できることから始めよう地球温暖化ストップ』をテーマに東金文化会館で開催された。イベント『地球にやさしい自動車集合!』に当協議会から5名(小関、阿部、林、種本、小野)が参加した。牛糞をメタン発酵させ車の燃料にして走行する軽トラックを展示した。生のバイオガスの臭いがかがせ、ビックリしたところで仕組みを話すと驚くことしきりであった。また太陽光発電による燃料電池を積んだリモコンカーで、子ども達に走行距離の長さを競わせ、自然エネルギーについて考えるきっかけ作りも行った。

我々人間の身体ですら食物をエネルギーに変えることで維持され、有限無限のエネルギーの恩恵無しには我々の生存は不可能であること、無尽蔵にエネルギーを使うことが資源の枯渇や地球温暖化に拍車をかけることへの理解を深めて貰うのがこの展示の狙い目であった。

反省点としては参加してくれた親子に、じっくりさわり、遊び、体験し、話をきいてもらう十分な時間と場所がとれないことであった。次への課題としたい。

地域短信

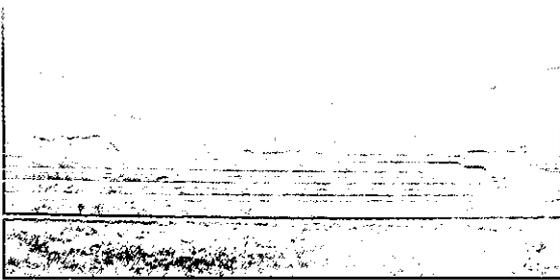
- ☆ (財)省エネセンターでは、自治体庁舎の省エネルギーを進めるために省エネナビを提供しました。千葉県での実施自治体は松戸市・鎌ヶ谷市などです。
- ☆ 八千代市には県委嘱の温暖化防止活動推進員が14名、内ECは有馬・本間の2人。昨年は市に協力し、八千代市広報に地球温暖化防止について意見を出し、有線放送の番組作りをお手伝い!「アースコン松戸」や「温暖化防止さくら」を手本に、団体登録をして活動に取り組んでいます。
- ☆ 「日本の伝統文化である風呂敷を用いて買い物をするごみを出さなくて済むよ」詳細は政府広報 <http://nettv.gov-online.go.jp> 4月14日11channelで。

～ 里山への想い ～

小野鈴子

「里山」、今ではしっかりと市民権を得たこの言葉を私が初めて耳にしたのは確か NHK の番組であったと記憶する。滋賀県琵琶湖畔、ひな壇の田んぼが残る風景の中に、トンボが静かに羽を休めていた情景が心に焼き付いている。

福井県若狭地方の風景



そこは亡き父の故郷である福井県の三方五湖を囲む山あいの風景ともよく似ていた。平野が少なく、見渡す限り数々の小さな扇状地状の棚田で今も米作りが行われている。単線のマッチ箱のような列車に揺られながら窓から眺めるこれらの棚田は、幼い頃両親に連れられて帰省したときと何一つかわらないたたずまいを今も見せてくれている。

山から流れる清冽な水を田に入れ、小動物と共生しながら先人達は生きてきた。その想いが今もしっかりと受け継がれている。耕地整理の手が入り整然と並ぶ棚田ではあるが、それでも無性に暖かく、懐かしく、ただひたすら美しく、ときとしてその美しさに胸のつまることさえある。特に美しいのは緑一色が初夏の柔らかな風の中にたゆたっている時と、稲刈りが終わり棚田の所々に残る柿の木に夕日が差すときである。言葉に出来ない「神々の仕業」。

里山は私の心の原風景、父を想い祖父母を想い子どものに返る唯一の場所である。

千葉の里山の現状を見るにつけ、一日も早く本来の美しい姿を取り戻してくれることを願わずにはられない。

総務部からのお知らせ

寄付金 5月6日まで

| | | | |
|-------|----------|-------|----------|
| 野口 久様 | 20,000 円 | 吉海照直様 | 21,000 円 |
| 土田茂通様 | 1,500 円 | 戸村 泰様 | 6,500 円 |
| 國廣隆紀様 | 3,000 円 | 林 正徳様 | 11,500 円 |
| 西田啓作様 | 1,500 円 | 二宮 恵様 | 1,500 円 |
| 山本光男様 | 33,000 円 | | |

ありがとうございます。

ECU 便り

NPO 法人環境カウンセラー全国連合会 (ECU)

1. 平成18年度通常総会開催

日時：6月27日(火) 14時～16時

場所：東京都北区滝野川会館(昨年と同じ)

(TEL: 03-3910-1651)

詳細は未定ですが、午前中・講演及び連絡会、午後・総会に続いて記念講演会、懇親会があり、終日盛り沢山の催しが予定されています。是非おでかけください。(EC 千葉事務局までご連絡ください。)

2. EC 制度 10 周年記念 (ECU 設立 5 周年) 行事

シンポジウムを計画。→9月21日(木)→

編集後記

♪ 会員相互に開かれた広報を目指し、皆さんからの寄稿をお待ちしております。活動事例、協議会に対するご意見、ご希望など 400 字程度にまとめてお寄せ下さい。また、広報を手伝って下さる方はお申し出下さい。大歓迎です。

年度の始めに当たって編集後記としました。

(本間)

♪ 季節の進み具合が例年より遅れているようです。5月の日照時間も記録的に少ないとか、麻疹の流行も報じられています。五月晴れは望めないようですが、心は晴れといきましょう！

(倉田)

広報 環境カウンセラーちば 第28号 (発行日 2006年6月1日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者：土田 茂通 会員：127名)

URL：[http:// www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm](http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm)

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方 (郵便宛先)

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 (各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692 (加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに！

編集：広報部 本間 格・倉田智子・二宮 恵・大山長七郎・松本源寿・石黒 忠・佐藤素子

E-Mail fwkd4421@mb.infoweb.ne.jp (記事寄稿先)

(古紙100%再生紙使用)

広報

環境カウンセラーちば

第29号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。

環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

<平成18年度通常総会報告>

事務局長 服部達雄

通常総会が平成18年5月28日に千葉市市民会館において開催された。会員総数127名に対し、102名の出席（内委任状56名）があり、総会として成立した。

服部事務局長の司会で議長に土田理事長を選任し、次に土田議長の下で書記に野口（康）氏、二宮氏を、議事録署名人に吉海氏、西田氏を選任し、次の議案を審議した。

(1) 第1号議案

「平成17年度事業報告ならびに決算報告」

事務局長が各部等の報告と決算報告。

(2) 第2号議案「平成17年度監査報告」

廣川監事から監査報告。

質疑応答の後、議長が第1及び第2号議案の議決を諮り、賛成多数で承認された。

(3) 第3号議案

「平成18年度事業計画案ならびに予算案」

議案書に沿って運営方針を土田理事長が、各部等の計画と予算案を國廣副理事長が説明し、質疑応答の後、賛成多数で承認された。

(4) 第4号議案「役員を選任」

「現役員は昨年度総会において2年を任期として選出されているので、役員選任を行わない」との議案書説明を行い、賛成多数で承認された。

以上により全ての議事が終了し議長が閉会を宣言した。

<平成17年度事業成果>

- (1) 環境保全推進事業として、従来から実施してきた「環境セミナー」「企業/施設見学会」「秋季研修会」などに加え、新たな企画として「環境公開講座」を開催した。また、市民団体の「親と子の環境学習会」を支援した。

- (2) 次いでエコメッセちば2005、東金市、袖ヶ浦市、鎌ヶ谷市、千葉市、白井市、四街道市等の環境イベントに出展・参加した。
千葉県立中央博物館水フェスティバルにおいては水の電気分解と燃料電池の実演展示を行った。
- (3) 講師派遣事業として、高校総合学習および中学校での環境授業を受け持ち、当協議会の環境教育活動に新機軸を具体化することができた。
- (4) 行政機関、事業者などに対する事業として、千葉県環境財団に協力して「EA21 地域事務局」を立ち上げ、さらに県とNPOとの協働事業である「EA21 普及セミナー」を受託し、EA21の普及啓発を進めた。また、本年度も「企業環境セミナー」「地域環境セミナー」「内部監査員養成講座」を開催した。
- (5) その他の事業として、広報紙「環境カウンセラーちば」を4回発行、また新規課題への対応の一つとして「水環境研究会」を発足させた。環境カウンセラー全国連合会(ECU)に対して従来どおりに協力した。

<平成18年度事業計画>

- (1) 環境保全推進事業としては「環境セミナー」「企業/施設見学会」「秋季研修会」「環境公開講座」「自然観察会」を本年度も継続開催する。
- (2) 「エコメッセ2006 in ちば」に参加する。また、各地の環境イベントに積極的に出展・参加し、当協議会の活動を紹介し、知名度向上に結びつける。
- (3) 講師派遣事業においては、高校、中学校への環境学習出前講座の実現に取り組む。カリキュラム、テキスト・機材の充実をはかり、学校側の要望に柔軟に対応できるようにする。
- (4) 行政機関、事業者などに対する事業としては、EA21 地域事務局千葉県環境財団と連携し、EA21の一層の普及に取り組んでゆく。また、本年度も「企業環境セミナー」「地域環境セミナー」「内部監査員養成講座」を開催する。
- (5) その他の事業として、広報「環境カウンセラーちば」の発行、「水環境研究会」の継続、ECUに対する協力を行う。

特別講演会第15回環境セミナー報告

温暖化対策センター長 辻川 毅

平成18年5月28日 当会の総会でNPO法人環境生態工学研究所 須藤 隆一理事長（埼玉県環境科学国際センター長、中央環境審議会地球環境部会長）による特別講演“地球温暖化対策をめぐる課題と展望”が開催されました、この内容の概要を報告いたします。

須藤理事長は、数多くの公的要職を兼任され、その豊富な研究成果、高度な政策的見地に基づいてグローバルな立場で、

1. 地球のおい立ち
2. 地球環境問題
3. 温室効果ガスの削減
4. 京都議定書目標達成計画
5. わが国の地球温暖化対策および

循環型社会を構築するうえでの課題について、講演いただきました。通常の講演会等ではお聞きすることの出来ない大変示唆に富んだ幅広い環境指導と話題提供があり、約50名の参加者が今後の活動に大いに参考となるものでありました。

「最終目標はCO₂の発生をいかに抑えるか」と、そのための「わが国の地球温暖化対策および循環型社会を構築するうえでの課題」は以下の通りとなります。

- 1) 京都議定書の達成見通しは有るのか？
…難しいけどやるのだ！
- 2) 2012年以降のGHGs（温室効果ガス）の更なる削減は可能か？
…平均温度上昇2℃以下に抑えるために！
- 3) GHGsを60～70%削減の持続可能な社会の構築を進めることが出来るか？

環境問題の森を観る

私は損害保険業界の研究機関にかつて所属し、この時期はちょうど地球サミットの翌年1993年であったため、そこで「地球環境問題と産業界のあり方」という命題の下、環境問題に取り組むこととなった。

このテーマを追って各種の文献にあたり、様々な分野、次元における数限りない提言に接することができた。これらは、学術的にはまさに人文・社会科学から自然科学に亘り、学際的で全学的なセンスをもって読まなければ理解できない、環境問題解決に向けた多くの手段、手法、技法、技術的な提案であった。それらを踏まえ、環境問題の真の解決に向けて、私が是非提案したいのは「環境問題を克服した先に住みたい社会



総会時の特別講演

- 4) 温暖化対策に掛かる費用をどの様に負担するか、環境税は受け入れられるか？
…今の枠組みで出来るのか、環境税の認知
- 5) 温暖化対策によってわが国の信頼は得られるのか？
…6%削減が護られれば位置付けできる
- 6) 新エネルギーの開発と普及は可能か？
…これからの10年
- 7) 原子力普及は受け入れられるか？
…国民の選択

直近の必要な抑制施策についての課題

- 1) 地域推進計画の策定
- 2) 排出、削減に資する都市整備
- 3) 植林、里山、林の整備、木材資源対応
- 4) 地域住民への教育、啓発…民間の活動の支援
- 5) 率先モデル地域の創出
- 6) 国と事業者との連携
- 7) 地球温暖化防止活動推進センターと
推進員の協力と協働
- 8) 地域ブロック連絡会議
- 9) 自然エネルギーの活用

以上

の姿’を一度みんなで考えてみてはどうか、ということである。

環境問題について限りなく語られるようになる一方、基本的で本来目指すべきゴールがあまりにも不鮮明である。そして、このためにプライオリティが曖昧となり、各種提言の中には大変有力なものがあるにも拘らず、それ程でないものの中に埋没し、現実に活かしきれず、もったいなく思う。

良い木を選んで個々の木を一生懸命育てることは大事だが、これらの木々を育てた後に造る森全体を親でみる事が大変大事である。そう、今一度足元を見つめ、環境問題を解決した後、私たちがどのような社会に住みたいとの想いを持っているのかを考えてみる機会が是非あって欲しい。
(福井信行)

尾瀬自然観察会に夫婦で参加して

松本 源寿・初枝

去る4月下旬、会員とその家族も参加可となっていたので、早速ペアで申し込んだら真っ先だったため、本紀行文を書く事になった。県北東部、最遠方の私達は、7月3日早朝、最寄の駅始発5:33に乗るも、津田沼集合場所到着はバス出発時刻7:30の3分前で最後だった。

バスは総勢25名を乗せて、首都高、関越と順調に走り、沼田から景勝地「吹割の滝」に立寄り、正午頃、鳩待峠に着く。途中、林幹事、土田理事長のご挨拶に続き、小角講師からビデオで尾瀬の解説を受けた。

昼食後、一行の先頭は小角講師、しんがりは林幹事、「鳩待峠」を12:50出発、3.3km先の「山の鼻」へ林道を下る。緑色の大きな葉っぱの群落が目立つ（聞けば、水芭蕉の筒状の花を庇っていた清楚な白い苞が役目を終えて脱落、葉がぐんぐん成長してこんなに変身）。約1時間で「山の鼻ビジターセンター」に着き、一息入れて出発、尾瀬ヶ原の木道の始まりである。先頭の講師、後方の中庭さん、適宜歩を止めて、一行に尾瀬に咲く花々の解説をされる。私達は生徒よろしく、メモしたり、写真を撮ったりと忙しい。しかし、暫らく経つと、先程覚えた筈の花の名前を直ぐに言えなかったり、花と名前が一致しなかったり……。

「牛首分岐」経て7km先の「東電小屋」（今日の宿）へ向かう。途中、熊出没地域を通る。木道には熊対策用に鐘と槌が備え付けられていて、鐘を叩いて通過。

夕方5時、一行全員無事、東電小屋到着。貸切の別館2階にリュックを下ろし、先ず本館浴場で汗を流す。生き返った爽やかさに、高原の冷気が気持ちいい。6時から全員揃って夕食、山小屋なのに品数多く予想以上のご馳走に皆ご機嫌、空腹も手伝い、お互い若者ながら食欲旺盛、和やかに楽しいひと時だった。7時頃から別館2階で小角講師からスライドによる、尾瀬自然観察の研修会を聴講。次いで反省会（実は懇親会）で盛り上がる。

名前を覚えた花 センテイカ（前庭花：ニッコウキスゲ）



翌4日、周囲総じて早起き、つられて起床。4:30前後だが外は既に明るくなりつつあり、高原の冷気に武者震い。三々五々、各自、身支度して宿の周辺を散策。「熊が出るかも、気をつける!」と誰かが叫んでいる。6:00朝食スタート。東電小屋の太陽光発電施設見学。7:00出発、2km先の「見晴十字路」で小休止。木道を進むうち、時々脇に泥田出現（聞けば鹿が体に付くダニ等寄生虫を泥田で擦り落とす所でヌタと呼ぶ）。「竜宮」経由6km先の「山の鼻」へ向った。道中、沢山の物資を背負って運ぶ「ぼっかさん」8人に会う（人により異なるも50kg～最大90kgに達する）。通常はヘリ輸送だが、悪天候では人力に頼る由。「山の鼻」で休止後、昨日下った山道を逆に3.3kmの上り坂、最後の正念場を励ましあいながらマイペースでゆっくり鳩待峠を目指す。私は、昨日は努めて先頭近くを歩き、小角講師の高層湿原草花の説明を聞いたが、今日は一転、少し離れて歩いた。何故って？昨日、教わった草花の名前を度々テストされ、正しく答える自信がなかったから。正午頃、全員無事、「鳩待峠」に辿り着き、昼食、休憩。阿部幹事から、昨日、凡そ16,000歩、今日18,000歩と歩数計測の報告あり。天候に恵まれ、全員無事、踏破を喜び合った。

12:50発、帰途につく。「日光湯元ビジターセンター」と「湯滝」に立寄り、「いろは坂」を下って順調に走行、松戸駅近くで一行のうち9名下車、終点JR千葉駅近くには予定より早く、19:10無事到着。解散。私達は予定より一電車前に間に合い21:20無事、帰宅。

幹事の林様・阿部様、講師の小角様、有意義で楽しい「尾瀬探勝」を有難う御座いました。

今年の「尾瀬」は融雪が遅れた所為で、例年より開花が一週間から十日ほど遅れたものの、遅霜の害を受けることもなく、瑞々しい初夏の湿原植物をユックリ観察できたのはご同慶の至りです。一昨年の遅霜後遺症の惨状？であったら、皆さんの印象もかなり変わっていたでしょう。それにしても、尾瀬には「ご夫婦連れ」がよく似合っていました。（小角 浩）

小関さん表彰、おめでとう！！

6月28日(水)環境省にて、平成17年度我が家の環境大臣「エコファミリーレポート」表彰式が行われました。当協議会の小関光二さんが、一般部門・優秀賞に選ばれました。おめでとうございます！！

部門は小・中学生、一般、団体、企業とあり、それぞれに環境大臣賞、優秀賞、特別賞があります。今回は149通の応募の中から11の賞が選ばれました。

「蛍光灯や冷蔵庫などはトップランナーの節電機器を導入、湯たんぼコタツや居間一室使用などの節電行動、太陽光発電の導入や温水ボイラーによる再生エネルギーの導入などで包括的に省エネ生活を送っている。我慢の節電生活ではなく、生活レベルも落とさず楽しく生活の中で省エネが出来ることを実証した」ことが受賞の対象となりました。

小関さんは、太陽光発電をやっているボランティア仲間から、電気消費量が少ないので「仙人」と呼ばれています。しかし、仙人のような世俗から離れた生活を送っているわけではなく、快適なエコ生活をしているのでこの呼び名にはいささか不満があるとのこと。

小関家では、月末に全電気消費量と主要家電の消費量、ガソリン、灯油、LPG、可燃廃棄物排出量のデータをとり、環境家計簿をつけ、さらに対策を図るとか、データを取りながらエコライフを楽しく過ごすことがポイントなのでしょう。

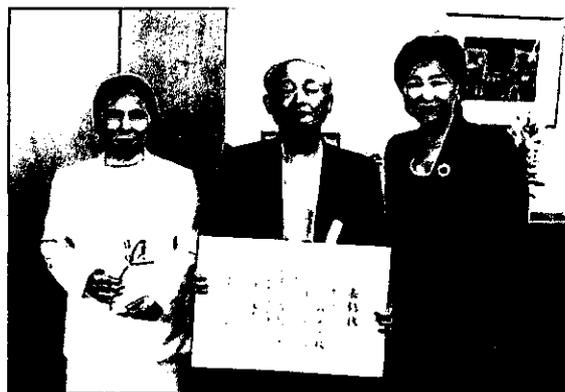
『今後の目標は現在の電気消費量月平均 150Kwhを維持し、将来は 100Kwh を目指したい。また CO2 はガソリン、灯油の消費量を減らす方法を模索中！』小関さんの次なるチャレンジに期待します！（本間記）

騒動記——牧草から水素を発生させる★

水を入れたガラス瓶二つ。片方に牧草、もう一方は水素を溜める注射器を入れ、チューブでつなぐ。シンプルな器具だが、これで水素を集め、燃料電池車を走らせる。山田バイオマスプラントで手ほどきを受け、家に帰って取り組んだ。牧草の重さを量り、ティーバッグに詰め……。12時間経過して、溜り始めたと思いきや、2ccほどで終わり。ビンの中は反応しているのが見えるのに、どうして溜まらないの？

阿部さんに連絡。「コックを閉めて！」教えを乞うたのにうまくいかない！原因はなんと部品が一つなかったのです。後日聞き流しも発覚！（水道水は避ける）悪い生徒でごめんなさい。

今回は文句なしに成功することでしょう。（倉田）



エコライフは一人ではできません。表彰もご夫婦で！

新入会員自己紹介

川野辺 建 千葉市 事業部門

約1年前まで某審査登録機関のQMS/EMSの審査員をしていました。QMSの審査が主体です。現在はその後の審査実績がないので、6月で審査員補になりました。

今後の計画の一つは、地元柏市中心に異業種による勉強会のお手伝いをしようと思っていることです。過日、東葛テクノプラザでの交流会では、認証取得済企業に対してISOマネジメントシステムの効果的な運用について講演し、最後に今後の活動提案として『JIS Q 9005 質マネジメントシステム—持続可能な成長の指針』の自主勉強会を呼びかけたのですが、あまり反応がありませんでした。今後の計画を模索しています。

吉野 定治 船橋市 事業部門

1949年生まれ。電気工学科卒。1972年、精密機械メーカーに入社。時計の回路実装及びバッテリー開発に従事し、その後情報関連事業にて新製品のデザインレビュー（環境配慮型製品含む）を推進した。

現在、吉野技術士・労働安全コンサルタント事務所を開設して独立し、品質 ISO・環境 ISO・労働安全衛生 OHSAS の主任審査員及び EA21 審査人。統合マネジメントシステムの構築及び融合管理会計を推進中。船橋市の EA21 担当として「環境対応最優良都市」に向けた活動をしたい。

平間 稔夫 市原市

太陽光発電所ネットワークで、相談員、千葉地域の世話人をしております。小関さんと一緒に活動していましたが、入会を勧められ、皆様の仲間に入れさせて頂きました。

EC千葉との関わりは、船橋北高の環境学習で授業の手伝いをさせて頂きました。また「エコメッセちば」や「てづくり環境博」等でも、皆様にお目に掛かっていると思います。

環境イベントのワークショップが大好き人間で、自然エネルギー利用、省エネの旗を掲げております。

「めざせ、持続可能な社会

～楽しく 賢く エコライフ～

石黒 忠

「エコメッセ 2006 in ちば」が9月3日(日)幕張メッセ国際会議場で開催された。EC千葉協議会では、昨年来積極的に取り組んでいる「環境カウンセラーによる環境学習」のPRとした。

内容は、我々が目指している「**見て**」「**聞いて**」「**触って**」そして「**考える**」環境学習を積極的にPRするため、環境学習の昨年実績パネルだけでなく、阿部さんを中心としたバイオマス実験(牛糞からメタンガス発生と燃料電池)および辻川さんを中心とするPHのはなし(食品のPHを測定し、水汚染への影響を訴える)の2つのデモを展開した。

実験器具を使ったわかりやすい説明はブースを訪れた市民の方々の意識改革になったと思う。また、参加会員の積極的な呼び込みもあり、ブースは来場者が開始から終了まで途切れることが無かった。昨年と比較して2倍以上の体験者があったと感じた。

当日参加者:土田、服部、野口(康)、辻川、古畑、種本、小野、阿部、林、大山、藤田、茂利、石黒

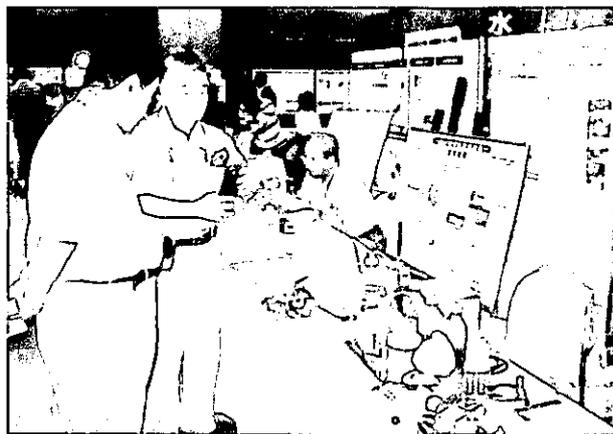
原油高 進むか脱ガソリン

原油高騰に伴いガソリンの高値が続く中、電気自動車やアルコール混合燃料自動車の導入実験が進んでいる。このような中、砂糖が値上りしたのは耳新しい。

EC千葉理事会のメンバーは4月から「実走行燃費」を記録、理事会時に提出している。特記事項に走行状況(例えば①駅への送り迎えや買い物など日常の短い距離 ②県内の中距離 ③高速道路を利用した遠距離など)を区分して記入する。できるだけこまめに給油することが燃費を節約するコツのようである。満タンのガソリンは不要の荷物を積載するのと同じ!

EC千葉の地球温暖化対策センターが毎月集計を行っている。記録用紙を希望される方は事務局まで(メール配信されます。データ集計にご協力を!)

過日「90リットル・4時間」の自動車耐久レースを観戦した。同じ車種、サーキット内にもかかわらず、結果的に優勝チームの3/4しか走行できなかった車があった。レース終了の15分前にはガス欠で走行不能となる車も数台出ている。このレース観戦で運転技術が燃費にも深く関わることを思い知った。(倉田)



カウンセラーのブース:水素発生装置を前に熟演
昨年登場のクマの笛太鼓やファン・燃料電池車も勢ぞろい

エコアクション21 セミナー(柏市)

環境省が昨年度から推進している「エコアクション21」のセミナーが柏市で開催されます。EA21の取組に向け、この機会を是非ご活用ください。

1. 開催日時 平成18年11月17日(金)
13:30~17:00(開場:13:00)

2. 会場 柏商工会議所4階会議室
柏市東上町7-18

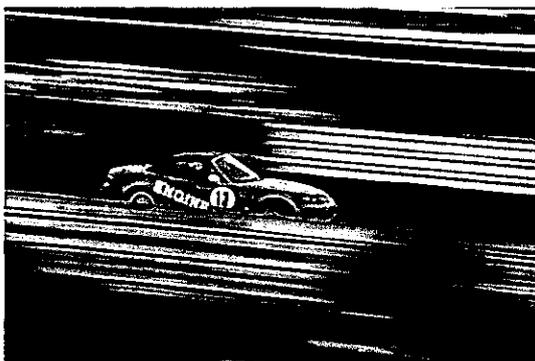
3. 参加費 無料(定員100名・先着順)
プログラム

- (1)エコアクション21の取組方法とそのメリット
- (2)エコアクション導入の実務
- (3)事例紹介 エコアクション21に取組んでの成果
- (4)エコアクション21 認証・登録の手続きとそのポイント
- (5)個別相談

主催 エコアクション21 地域事務局千葉県環境財団
NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会ほか
後援 千葉県、千葉県商工会連合会、ほか
問合せ:EMS 支援センター 二宮

TEL/FAX 0436-61-2083

申込:エコアクション21 地域事務局 FAX 043-246-6969
平成18年11月7日(火)まで



筑波サーキットにて

総務部からのお知らせ

寄付金 5月7日～8月3日
 有馬富穂様 27,000円 山本光男様 86,300円
 吉海照直様 44,900円 西田啓作様 10,350円
 小関光二様 5,600円

ありがとうございました。

ECU便り

戸村 泰 本間 格

平成18年度通常総会が6月27日(火)、北区滝野川会館で開催され、当協議会からは土田、國廣、戸村、小角、本間が出席した。

総会に先立ち、環境省の伊東地方環境室長による「地方環境事務所と環境カウンセラーの協働について」尾崎環境教育推進室長補佐による「最近の環境教育の動きと環境カウンセラーに期待すること」と題した講演が行われた。

総会議案の審議を17年度理事により行った後、総会を開き17年度事業報告、決算報告、18年度事業計画案、予算案(一部修正)が承認された。

役員の改選も行われ、千葉からは戸村(副理事長・事業)、小角(常務理事・緑化)、本間(理事・関東ブロック)が選出された。

その他の決定事項：

1. ECU推薦の環境大臣表彰が実現した。今後毎年推薦依頼がある予定なので各協議会も検討しておく。
2. EC制度10周年記念事業を9月21日(滝野川会館)、22日(文京区シビックセンター)で開催予定。

総会終了後、桜井環境省大臣官房審議官から「環境行政の動き-みんなで止めよう地球温暖化」と題する記念講演があり、19:00無事終了した。

地域短信

- ☆ 資源循環型社会を考えるつどい
 千葉県主催で八千代・市原・東葛(柏市)・南房総(館山市)・東総(旭市)でタウンミーティングが、7月19日より順次開催された。5会場で400名を超える参加者があり、各地域で環境カウンセラーが実行委員として運営に加わった。
- ☆ 「エコライフやちよ」発足
 従来より不定期に集まり、どのような活動をするか模索してきた八千代市在住地球温暖化防止活動推進員(13名)は規約など整え「エコライフやちよ」を立ち上げました。(EC千葉会員は有馬、本間)
 初めての活動は11月3日(金)「市民活動支援センターまつり」(会場：ふるる・ガーデン)に参加します。EC千葉の皆様の応援、よろしくお願い致します。当日のご来場大歓迎です！ (IH)
- ☆ 8月22日～25日山田バイオマスプラントのバイオガスバイク(燃料は牛糞由来のメタンガス)が鎌ヶ谷市役所ロビーに展示され、話題を呼んだ。
- ☆ 「八千代自然と環境を考える会」(代表佐藤素子氏 EC千葉会員)と「湧水調査の会」は、(株)ベイエフエムによる「Love Our Bay 募金」の助成金を受け、「八千代市湧き水マップ」を今年9月に発行した。市内11箇所の湧水地、自然環境の紹介のほか、湧水の水質調査結果もまとめている。

編集後記

- ♪ 体調不良で編集作業に支障をきたし、発行が1ヶ月遅れたことをお詫び申し上げます。「元気が取り得」と言っている、無理の出来ない年齢なのだと思省している次第です。皆様もご自愛のほどを！！ (本間 格)
- ♪ 自然が相手の市民部門はこれから行事が目白押しです。秋はほかの季節と異なり、気候の変化が激しく、そのため見られるものがたくさんあります。どうぞ五感をフルに生かして「あなたの秋」を見つけ、季節を堪能してください。(倉田智子)

広報 環境カウンセラーちば 第29号 (発行日 2006年 10月 1日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者：土田 茂通 会員：127名)

URL：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方

事務局：Tel & Fax 043-276-7300 服部達雄 (各種ご相談、お問合せ先)

郵便振替口座：00110-5-34692 (加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに！

編集：広報部 本間 格・倉田智子・二宮 恵・大山長七郎・松本源寿・石黒 忠・佐藤素子

記事寄稿先：E-Mail fvkd4421@mb.infoweb.ne.jp

(古紙100%再生紙使用)